



美人姉妹のスカトロ調教
第1章

CG画像＋ノベル
地の文、セリフ
あり・なしファイル

キック文庫

第1章 香織

客室乗務員さんがこちらを向いて座席に腰かけている。



おそらく20代半ばくらい。
ブルーのスーツに、下は短めのスカートを履いている。

カチツ……カッ……カチツ。
「あれっ、どうしたのかしら」
必死にシートベルトを外そうとしている。



「どうかしました？」
ちようど対面に座っていたヒロシは、思わず話しかけた。
「えっと……」
その慌てる様子が可愛らしかった。
切れ長の目にクラクラしてしまいそうだ。
「すう〜」
思わず匂いを嗅いでしまうヒロシ。
乗務員さん特有の洗練された女性の匂いがする。



「あのう〜」
助けに来てくれたのか、それともナンパしに来たのか、
聞きたそうな感じの乗務員さん。
ネームプレートには藤本とある。

「あつえくと……下の名前って何ですか？」
ヒロシが笑顔で聞いた。
そんなことくらいしか思い浮かばなかった。



すると乗務員さんは、

「えっつ？」
はにかんで頬を赤くした。

年下の男に、下の名前を聞かれてうれしそうだが、
逆に若いヒロシのことを馬鹿にしているような笑いだ。



そしてなんだやっぱりそっちだったのかと、聞かれる
ことを準備していたかのような、ワザとらしい驚き方にも見える。



「か……香織（かおり）よ」
笑みを浮かべながら一応答えてくれた。

「素敵なお名前ですね」
と言いながら、座席に腰かけている乗務員さんの胸元を、
上から覗くヒロシ。



薄手のシャツにベルトが食い込み、さらに胸元のボタンが
一つ取れていて、真上から覗くとブラが見えてしまう。

こんな仕事をしてる割には、かなり派手な色と柄だ。
お腹に力を入れてるせいか、両膝は開き気味。



そしてスカートは下腹部の方にズレてきている。
ただ真上からだとそっちの下着は確認できない。



しばらくして、ガチャツ。
何かの拍子でシートベルトが外れたようだ。

「ふう〜」
かなりホツとした表情を見せ、その後にはササツと乱れた
衣服を直した。



「あ……なんだ」
本当は残念だったが、ヒロシはその気持ちを見せずに
自分の席に戻ろうとした。

しかしその後、突然、乗務員さんは座っていた席を立つと、ガガッ——バタンツ。隣の化粧室に駆け込んだ。



「トイレ……か」
呆気にとられるヒロシ——ただその後、何気なく彼女の後を追うように化粧室の方に近づいてしまった。

別に覗こうと思ってつけた訳ではなくて、何となく足が追ってしまったのだ。

そして、

「あれ？」
ヒロシはいつもとは違うあることに気付いた。

誰かが化粧室に入っていて、ドアの前で待つときに
よく見かける表示のことだ。
どういう訳かドアに「使用中」の表示がない。
つまり「空き」のままなのだ。



だが、この化粧室はたった今、彼女が入ったトイレに
間違いない。

(ということとは……………?)

ギイー。
バスルームのような押すタイプドアだったので、
ヒロシはつい押ししてしまった。
実は表示の故障で、まさか本当にドアが開くとは思ってなかったのだ。



(えっ)
意外な手応えに驚くヒロシ。

そしてそこに彼女が座っているとは思わなかった。

「あ」

あまりに無防備な格好を見られたショックと、ヒロシの顔がかなり近い距離に現れたせいも、乗務員さんは啞然としている。



一瞬、二人の間が凍りついた。